

手法名	基本形	特徴・利点	QCストーリーのステップ	活用のポイント
チェックシート		<ul style="list-style-type: none"> データが分類項目別にどこに集中しているかを見やすく表した図表 データが簡単にとれ、しかも整理しやすい 	<ol style="list-style-type: none"> ①テーマ ③現状の把握 ④解析 ⑤対策 ⑥効果の確認 ⑦標準化 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を明確にし、目的に合ったチェックシートを作る
グラフ		<ul style="list-style-type: none"> データ(数字)を一目でわかるように図示したもの。 集めたデータの意味するところをただちに、かつ、正確につかむことができる。 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ 帯グラフなど種類が豊富 	<ol style="list-style-type: none"> ③現状の把握 ④解析 ⑥効果の確認 ⑦標準化 	<ul style="list-style-type: none"> 作る目的を明確にする 集めたデータをそのまま使うかどうかを判断 データ数は十分かどうかを点検
パレート図		<ul style="list-style-type: none"> データをいくつかの分類項目に分け、それを大きさの順に並べた棒グラフと、累積折れ線グラフで表した図 何が最も重要な問題かが一目でわかる 	<ol style="list-style-type: none"> ③現状の把握 ④解析 ⑥効果の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 分類項目をしっかりと決める 重点項目がはっきりつかめないときは、分類項目を考え直して作り直す
特性要因図		<ul style="list-style-type: none"> 問題とする特性と、それに影響を及ぼしていると思われる要因との関係を整理して、魚の骨のように体系的にまとめたもの 特性に対する各々の要因の影響度がはっきりし、真の原因が見えてくる 	<ol style="list-style-type: none"> ④解析 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な角度から常に全員で意見を出し合い、検討を加え、改善していく 特性はできるだけ具体的にしておく
散布図		<ul style="list-style-type: none"> 対になった2つのデータを点で表した図 2つのデータ間に関係があるかどうか、あるとしたらどのような関係かを一目でつかむことができる 	<ol style="list-style-type: none"> ④解析 	<ul style="list-style-type: none"> データ数を少なくとも30組、できれば50組以上にする
ヒストグラム		<ul style="list-style-type: none"> 得られたデータをいくつかの区間に分け、各区間に入るデータの数をかぞえて、棒グラフの形に見やすく整理した図 データが全体としてどんな姿なのか、どんなふうバラツいているのかが一目でわかる 	<ol style="list-style-type: none"> ③現状の把握 ④解析 ⑥効果の確認 	<ul style="list-style-type: none"> データ数は50以上、できれば100くらいに 縦軸、横軸の目盛りをうまく決めてバランスをとる(正方形に近くする)
管理図		<ul style="list-style-type: none"> 工程の異常の発見を時系列データと、管理限界線によって客観的に行えるようにした図 異常をいち早く発見し、適切な処置をとることができる 	<ol style="list-style-type: none"> ①テーマ ⑧残された問題点と今後の計画 	<ul style="list-style-type: none"> 管理目的や管理内容に応じて、最的確な管理図の種類を選ぶ



